

zhú lǐ guǎn wáng wéi
竹里馆 王维

dú zuò yōu huáng lǐ
独坐幽篁里

tán qín fù cháng xiào
弹琴复长啸

shēn lín rén bù zhī
深林人不知

míng yuè lái xiāng zhào
明月来相照

yuàn qíng lǐ bái
怨情 李白

měi rén juǎn zhū lián
美人卷珠帘

shēn zuò pín é méi
深坐颦蛾眉

dàn jiàn lèi hén shī
但见泪痕湿

bù zhī xīn hèn shuí
不知心恨谁

ひと ゆうこう うち さ
独り幽篁の裏に坐し

だんきん ま ちょうしょう
弹琴復た長 嘯

しんりん ひと し
深林 人知らず

めいげつ き あいて
明月来たりて相照らす

びじん しゆれん ま
美人珠簾を捲き

ふか さ が び ひそ
深く坐して蛾眉を颦む

た み るいこん うるお
但だ見る涙痕の湿うを

し こころ たれ うら
知らず心に誰をか恨む

jìng yè sī lǐ bái
静夜思 李白

chuáng qián míng yuè guāng
床前明月光

yí shì dì shàng shuāng
疑是地上霜

jǔ tóu wàng míng yuè
举头望明月

dī tóu sī gù xiāng
低头思故乡

dú zuò jìng tíng shān lǐ bái
独坐敬亭山 李白

zhòng niǎo gāo fēi jìn
众鸟高飞尽

gū yún dú qù xián
孤云独去闲

xiāng kàn liǎng bú yàn
相看两不厌

zhǐ yǒu jìng tíng shān
只有敬亭山

しょうぜんげつこうあき
床前月光明らかなり

うたが うらくはこれ ちじょう しも
疑うらくは是れ地上の霜かと

こうべ あ めいげつ のぞ
頭を挙げて明月を望み

こうべ た こきょう おも
頭を低れて故郷を思う

しゅうちようたか と つき
衆鳥高く飛んで尽き

こうんひと き のど
孤雲独り去って閑かなり

あいみ ふた いと
相見て両つながら厭わず

た けいていざん あ
只だ敬亭山有るのみ

jiāng xuě liǔ zōng yuán
江 雪 柳 宗 元

dēng yōu zhōu tái chén zǐ áng
登 幽 州 台 陈 子 昂

qiān shān niǎo fēi jué
千 山 鸟 飞 绝

qián bú jiàn gǔ rén
前 不 见 古 人

wàn jìng rén zōng miè
万 径 人 踪 灭

hòu bú jiàn lái zhě
后 不 见 来 者

gū zhōu suō lì wēng
孤 舟 蓑 笠 翁

sī tiān dì yōu yōu
思 天 地 悠 悠

dú diào hán jiāng xuě
独 钓 寒 江 雪

dú chuàng rán tì xià
独 怆 然 涕 下

せんざんとりと たえ
千山鳥飛ぶこと絶え

まえ こじん み
前に古人を見ず

ばんけいじんしょうめつ
万径人蹤滅す

のち らいしや み
後に来者を見ず

こしゅうきりゅう おう
孤舟蓑笠の翁

てんち ゆうゆう おも
天地の悠々たるを思うて

ひと つ かんこう ゆき
ひとり釣る寒江の雪に

ひと そうぜん なんだくだ
ひとり愴然として涕下る

jiāng nán chūn dù mù
江 南 春 杜 牧

kè zhōng xíng lì bái
客 中 行 李 白

qiān lǐ yīng tí lǜ yìng hóng
千 里 莺 啼 绿 映 红

lán líng měi jiǔ yù jīn xiāng
兰 陵 美 酒 郁 金 香

shuǐ cūn shān guō jiǔ qí fēng
水 村 山 郭 酒 旗 风

yù wǎn chéng lái hǔ pò guāng
玉 碗 盛 来 琥 珀 光

nán cháo sì bǎi bā shí sì
南 朝 四 百 八 十 寺

dàn shǐ zhǔ rén néng zuì kè
但 使 主 人 能 醉 客

duō shǎo lóu tái yān yǔ zhōng
多 少 楼 台 烟 雨 中

bù zhī hé chù shì tā xiāng
不 知 何 处 是 他 乡

せんりりうぐいすな みどりくれなゐ えい
千里鶯啼きて緑紅に映ず

らんりゅう びしゅうつこんこう
蘭陵の美酒鬱金香

すいそんさんかくしゆき かぜ
水村山郭酒旗の風

ぎよくわん も きた こはく ひかり
玉碗盛り来る琥珀の光

なんちょうよんひやくはっしんじ
南朝四百八十寺

た しゅじん よ かく よ
但だ主人をして能く客を酔わしめば

たしょう ろうだいえんう うち
多少の楼台煙雨の中

し いず ところ こ たきょう
知らず何れの処か是れ他郷なるを

dēng guān què lóu wáng zhī huàn
登 鶴 鵲 樓 王 之 渙

huánghèlóusòngmènghàoránzhīguǎnglíng lǐbái
黃 鶴 樓 送 孟 浩 然 之 廣 陵 李 白

bái rì yī shān jìn
白 日 依 山 盡

gù rén xī cí huáng hè lóu
故 人 西 辭 黃 鶴 樓

huáng hé rù hǎi liú
黃 河 入 海 流

yān huā sān yuè xià yáng zhōu
煙 花 三 月 下 揚 州

yù qióng qiān lǐ mù
欲 窮 千 里 目

gū fān yuǎn yǐng bì kōng jìn
孤 帆 遠 影 碧 空 盡

gèng shàng yì céng lóu
更 上 一 層 樓

wéi jiàn cháng jiāng tiān jì liú
唯 見 長 江 天 際 流

はくじつやま よ つ
白 日 山 に 依 り て 尽 き

こじんにし こうかくろう じ
故 人 西 の かた 黃 鶴 樓 を 辞 し

こうがうみ い なが
黃 河 海 に 入 り て 流 る

えんかさんがつようしゅう くだ
煙 花 三 月 揚 州 に 下 る

せんり め きわ ほつ
千 里 の 目 を 窮 め ん と 欲 し て

こはん えんえいへきくう つ
孤 帆 の 遠 影 碧 空 に 尽 き

さら のぼ いっそう ろう
更 に 登 る 一 層 の 樓

ただ み ちょうこう てんさい なが
唯 だ 見 る 長 江 の 天 際 に 流 る る を

shān zhōng dá sù rén lǐ bái
山 中 答 俗 人 李 白

sòng yuán èr shǐ ān xī wáng wéi
送 元 二 使 安 西 王 維

wèn yú hé yì zhù bì shān
問 余 何 意 住 碧 山

wèi chéng zhāo yǔ yì qīng chén
渭 城 朝 雨 浥 輕 塵

xiào ér bù dá xīn zì xián
笑 而 不 答 心 自 閑

kè shè qīng qīng liǔ sè xīn
客 舍 青 青 柳 色 新

táo huā liú shuǐ yǎo rán qù
桃 花 流 水 窅 然 去

quàn jūn gèng jìn yì bēi jiǔ
劝 君 更 尽 一 杯 酒

bié yǒu tiān dì fēi rén jiān
別 有 天 地 非 人 間

xī chū yáng guān wú gù rén
西 出 陽 關 無 故 人

われ と なん こころ へきざん す
余 に 問 う 何 の 意 に て か 碧 山 に 住 む と

いじょう ちょうう けいじん うるお
渭 城 の 朝 雨 は 輕 塵 を 浥 し

わろ こた こころ おの しず
笑 う て 答 え ず 心 は 自 ず と 閑 か な り

かくしやせいせいりゅうしよくあら
客 舍 青 々 柳 色 新 た な り

とう かりゅうすいようぜん き
桃 花 流 水 窅 然 と し て 去 り

きみ すす さら つ いっばい さけ
君 に 勸 む 更 に 尽 く せ 一 杯 の 酒

べつ てんち ひと よ あらざ あ
別 に 天 地 の 人 の 間 に は 非 る も の 有 り

にし ようかん いづ こじん な
西 の かた 陽 關 を 出 れ ば 故 人 無 か ら ん

é méi shān yuè gē lǐ bái
峨眉 山 月 歌 李 白

é méi shān yuè bàn lún qiū
峨眉 山 月 半 轮 秋

yǐng rù píng qiāng jiāng shuǐ liú
影 入 平 羌 江 水 流

yè fā qīng xī xiàng sān xiá
夜 发 清 溪 向 三 峡

sī jūn bú jiàn xià yú zhōu
思 君 不 见 下 渝 州

が び さんげつはんりん あき
峨眉山月半輪の秋

かげ へいきょうこうすい い なが
影は平羌江水に入いって流ながる

よるせいけい はつ さんきょう む
夜清溪をはつ発して三さんきょう峡むに向むこう

きみ おも み ゆしゅう くだ
君を思おもえども見みえず渝ゆしゅう州くだに下くだる

fù chóu dù fǔ
复 愁 杜 甫

wàn guó shàng róng mǎ
万 国 尚 戎 马

gù yuán jīn ruò hé
故 园 今 若 何

xī guī xiāng shí shǎo
昔 归 相 识 少

zǎo yǐ zhàn chǎng duō
早 已 战 场 多

ばんこくなお じゅうば
万国尚お戎馬

こえんいまいかん
故園今若何

むかしがえ そうしきま
昔むかしがえ帰えりしとき相そうしきま識ま少まれに

はや すで せんじょうおお
早はやく己すでに戦せんじょうおお場おお多おおかりき

qiū pǔ gē lǐ bái
秋 浦 歌 李 白

bái fà sān qiān zhàng
白 发 三 千 丈

yuán chóu sì gè cháng
缘 愁 似 个 长

bù zhī míng jìng lǐ
不 知 明 镜 里

hé chù dé qiū shuāng
何 处 得 秋 霜

はくはつさんぜんじょう
白髪三千条

うれ よ か ごと なが
愁うれいに縁よって箇かの似ごとく長ながし

し めいきょう うち
知しらず明めいきょう鏡うちの裏

いず ところ しゅうそう え
何いずれの処ところよりか秋しゅうそう霜えを得えたる

jué jù dù fǔ
绝 句 杜 甫

jiāng bì niǎo yú bái
江 碧 鸟 逾 白

shān qīng huā yù rán
山 清 花 欲 燃

jīn chūn kàn yòu guò
今 春 看 又 过

hé rì shì guī nián
何 日 是 归 年

こう みどり とりいよ しろ
江は碧みどりにして鳥とりいよ逾しろいよ白しろく

やま あお はなも ほつ
山は青あおくして花はなも然ほつえんと欲ほつす

こんしゅんま ま す
今こんしゅんま春ま看すのあまたりに又すた過すぐ

いず ひ こ きねん
何いずれの日ひか是これ帰きねん年

chūn xiǎo mèng hào rán
春 晓 孟 浩 然

chūn mián bù jué xiǎo
春 眠 不 觉 晓

chù chù wén tíniǎo
处 处 闻 啼 鸟

yè lái fēng yǔ shēng
夜 来 风 雨 声

huā luò zhī duō shǎo
花 落 知 多 少

しゅんみんあかつき おぼ
春 眠 晓 を 覚 えず

しよしよていちよう き
処々啼鳥を聞く

やらいふうう こえ
夜来風雨の聲

はな お こと し たしょう
花 落 つ る こと 知 る 多 少

zhōngshānjíshì wáng ān shí
钟 山 即 事 王 安 石

jiàn shuǐ wú shēng rào zhú liú
涧 水 无 声 绕 竹 流

zhú xī huā cǎonòng chūn róu
竹 西 花 草 弄 春 柔

máo yán xiāng duì zuò zhōng rì
茅 檐 相 对 坐 终 日

yì niǎo bù tí shān gèng yōu
一 鸟 不 啼 山 更 幽

かんすいこえ な たけ めぐ なが
澗水声無く竹を遶って流る

ちくせい か そうしゅんじゅう ろう
竹西の花草春柔を弄す

ぼうえんあいたい ざ しゅうじつ
茅檐相對して坐すること終日

いっちょう な やまさら ゆう
一鳥啼かず山更に幽なり

chū sài cóngjūnxíng wángchānglíng
出 塞 从 军 行 王 昌 龄

qín shí míng yuè hàn shí guān
秦 时 明 月 汉 时 关

wàn lǐ cháng chéng rén wèi huán
万 里 长 城 人 未 还

dàn shǐ lóng chéng fēi jiāng zài
但 使 龙 城 飞 将 在

bú jiào hú mǎ dù yīn shān
不 教 胡 马 度 阴 山

しんじ めいげつかんじ かん
秦時の明月漢時の関

ばんり ちょうせい ひといま かえ
万里長征して人未だ還らず

た りゅうじょう ひしやう あ
但だ龍城の飛将をして在らしめば

こば いんざん わた
胡馬をして陰山を度らしめず

chūn xíng jì xìng lǐ huá
春 行 寄 兴 李 华

yí yáng chéng xià cǎo qī qī
宜 阳 城 下 草 萋 萋

jiàn shuǐ dōng liú fù xiàng xī
涧 水 东 流 复 向 西

fāng shù wú rén huā zì luò
芳 树 无 人 花 自 落

chūn shān yí lù niǎo kōng tí
春 山 一 路 鸟 空 啼

ぎやうじやう か くさせいせい
宜陽城下 草萋萋たり

かんすいとくりゅう ま にし むこ
澗水東流して復た西に向う

ほうじゅひと な はなのずか お
芳樹人無く花自ら落ち

しゅんざんいち ろとりむな な
春山一路鳥空しく啼く

chú yè zuò gāo shì
除夜作 高适

lǚ guǎn hán dēng dú bù mián
旅馆寒灯独步眠

kè xīn hé shì zhuǎn qī rán
客心何事转凄然

gù xiāng jīn yè sī qiān lǐ
故乡今夜思千里

shuāng bìn míng zhāo yòu yì nián
霜鬓明朝又一年

りょかん かんとうひと ねむ
旅館の寒灯独り眠らず

かくしんなにごと うた せいぜん
客心何事ぞ 転た凄然

こきょうこん やせんり おも
故乡今夜千里を思う

そうびんみょうちょう いちねん
霜鬓明朝また一年

sì shí gē gù kǎi zhī
四时歌 顾恺之

chūn shuǐ mǎn sì zé
春水满四泽

xià yún duō qí fēng
夏云多奇峰

qiū yuè yáng míng huī
秋月扬明辉

dōng líng xiù gū sōng
冬岭秀孤松

しゅんすい したく み
春水四沢に満ち

かうん きほうおほ
夏雲奇峰多し

しゅうげつめいき あ
秋月明輝を揚げ

とうらい こしょうひい
冬嶺弧松秀ず

liáng zhōu cí wáng hàn
凉州词 王翰

pú táo měi jiǔ yè guāng bēi
葡萄美酒夜光杯

yù yǐn pí pá mǎ shàng cuī
欲饮琵琶马上催

zuì wò shā chǎng jūn mò xiào
醉卧沙场君莫笑

gǔ lái zhēng zhàn jǐ rén huí
古来征战几人回

ぶどう びしゅ やこう はい
葡萄の美酒夜光の杯

の ほつ び わ ぼじょう もよお
飲まんと欲すれば琵琶馬上に催す

よ さじょう ふ きみわら
酔うて沙上に臥すとも君笑うことなかれ

こらいせいせん いくにん かえ
古来征战幾人か回る

zǎo fā bái dì chéng lǐ bái
早发白帝城 李白

zhāocíbáidìcǎiyúnjiān
朝辞白帝彩云间

qiānlǐjiānglíngyírihuán
千里江陵一日还

liǎngànyuánshēngtíbúzhù
两岸猿声啼不住

qīngzhōuyǐguòwànchóngshān
轻舟已过万重山

あした じ はくていさいうん かん
朝に辞す白帝彩雲の間

せんり こうりょういちじつ かえ
千里の江陵一日にして還る

りょうがん えんせい な や
兩岸の猿声啼いて住まざるに

けいしゅうすで す ばんちょう やま
軽舟己に過ぐ万重の山

féng rù jīng shǐ cén chēn
逢入京使 岑参

gù yuán dōng wàng lù màn màn
故园东望路漫漫

shuāng xiù lóng zhōng lèi bù gān
双袖龙钟泪不干

mǎ shàng xiāng féng wú zhǐ bǐ
马上相逢无纸笔

píng jūn chuán yǔ bào píng ān
凭君传语报平安

こうえんとうぼう みちまんまん
故園東望すれば路漫々たり
そうしゅうりょうしょう なみだかわ
双袖竜鐘として涙乾かず
ばじょうあいお しひつな
馬上相逢うて紙筆無し
きみ よ でんご へいあん ほう
君に憑って伝語し平安を報ぜん

jiǔyuèjiǔrìyìshāndōngxiōngdì wángwéi
九月九日忆山东兄弟 王维

dú zài yì xiāng wéi yì kè
独在异乡为异客

měi féng jiā jié bèi sī qīn
每逢佳节倍思亲

yáo zhīxiōng dì dēng gāo chù
遥知兄弟登高处

biàn chā zhū yú shǎo yì rén
遍插茱萸少一人

ひと いきょう いかく な
独り異郷にあつて異客と為り
かせつ あ ごと ます しん おも
佳節に逢う毎に倍ます親を思う
はる し けいていたか のぼ ところ
遥かに知る兄弟高きに登る処
あま しゅ ゆ き いちにん か
遍ねく茱萸を挿して一人を少かんことを

fúrónglósòngxīnjiàn wángchānglíng
芙蓉楼送辛渐 王昌龄

hán yǔ lián jiāng yè rù wú
寒雨连江夜入吴

píng míng sòng kè chǔ shān gū
平明送客楚山孤

luò yáng qīn yǒu rú xiāng wèn
洛阳亲友如相问

yí piàn bīng xīn zài yù hú
一片冰心在玉壶

かん こう つら よるご い
寒雨江に連なって夜呉に入る
へいめいかく おく そざん こ
平明客を送れば楚山孤なり
らくやう しんゆう も あい と
洛陽の親友如し相問わば
いっぺん ひょうしんぎよく こ あ
一片の氷心玉壺に在り

qiū fēng yǐn liú yǔ xī
秋风引 刘禹锡

hé chù qiū fēng zhì
何处秋风至

xiāo xiāo sòng yàn qún
萧萧送雁群

zhāo lái rù tíng shù
朝来入庭树

gū kè zuì xiān wén
孤客最先闻

いず ところ しゅうふういた
何れの処よりか秋風至る
しょうしょう がんぐん おく
蕭蕭として雁群を送る
ちょうらいていじゅ い
朝来庭樹に入り
こかくもつと さき き
孤客最も先に聞く

ǒu chéng zhū xī
偶 成 朱 熹

shào nián yì lǎo xué nán chéng
少 年 易 老 学 难 成

yí cùn guāng yīn bù kě qīng
一 寸 光 阴 不 可 轻

wèi jué chí táng chūn cǎo mèng
未 觉 池 塘 春 草 梦

jiē qián wú yè yǐ qiū shēng
阶 前 梧 叶 已 秋 声

しょうねん お やす がく な がた
少 年 老 易 学 成 難 し
いっすん こういんかる
一 寸 の 光 陰 軽 ん ず べ か ら ず
いま さ ちとうしゅんそう ゆめ
未 だ 覚 め ず 池 塘 春 草 の 夢
かいぜん ごようすで しゅうせい
階 前 の 梧 葉 已 に 秋 声

fēng qiáo yè bó zhāng jì
枫 桥 夜 泊 张 继

yuè luò wū tí shuāng mǎn tiān
月 落 乌 啼 霜 满 天

jiāng fēng yú huǒ duì chóu mián
江 枫 渔 火 对 愁 眠

gū sū chéng wài hán shān sì
姑 苏 城 外 寒 山 寺

yè bàn zhōng shēng dào kè chuán
夜 半 钟 声 到 客 船

つきお からすな しもてん み
月 落 ち 烏 啼 いて 霜 天 に 満 つ
こうふうぎよ か しゅうみん たい
江 枫 渔 火 愁 眠 に 対 す
こ そ じょうがい かんざん じ
姑 蘇 城 外 の 寒 山 寺
やはん しょうせいかくせん いた
夜 半 の 鐘 声 客 船 に 至 る

chūn yè sū shì
春 夜 苏 轼

chūn xiāo yí kè zhí qiān jīn
春 宵 一 刻 值 千 金

huā yǒu qīng xiāng yuè yǒu yīn
花 有 清 香 月 有 阴

gē guǎn lóu tái shēng xì xì
歌 管 楼 台 声 细 细

qiū qiān yuàn luò yè chén chén
秋 千 院 落 夜 沉 沉

しゅんしょういつこくあたいせんきん
春 宵 一 刻 值 千 金
はな せいこう あ つき かげ あ
花 に 清 香 有 り 月 に 陰 有 り
か かんろうだい こえさいさい
歌 管 楼 台 声 细 细
しゅうせんいんらく よるちんちん
鞦 韆 院 落 夜 沈 沈

xīn jià niáng wáng jiàn
新 嫁 娘 王 建

sān rì rù chú xià
三 日 入 厨 下

xǐ shǒu zuò gēng tāng
洗 手 作 羹 汤

wèi ān gū shí xìng
未 谙 姑 食 性

xiān qiǎn xiǎo gū cháng
先 遣 小 姑 尝

さんじつちゅう か い
三 日 厨 下 に 入 り
て あら こうとう つく
手 を 洗 っ て 羹 湯 を 作 る
いま こ しょくせい そら
未 だ 姑 の 食 性 を 諳 ん ぜ ず
ま ず しょうこ な
ま ず 小 姑 を し て 嘗 め し む

guān shān yuè chǔ guāng yì
关 山 月 储 光 义

sòng zhū dà rù qín mèng hào rán
送 朱 大 入 秦 孟 浩 然

yī yàn guò lián yíng
一 雁 过 连 营

yóu rén wǔ líng qù
游 人 五 陵 去

fán shuāng fù gǔ chéng
繁 霜 覆 古 城

bǎo jiàn zhí qiān jīn
宝 剑 值 千 金

hú jiǎ zài hé chù
胡 笳 在 何 处

fēn shǒu tuō xiāng zèng
分 手 脱 相 赠

bàn yè qǐ biān shēng
半 夜 起 边 声

píng shēng yí piàn xīn
平 生 一 片 心

いちがんれんえい す
一雁連營を過ぎ

ゆうじん ごりょう き
遊人五陵に去る

はんそう こじょう おお
繁霜古城を覆う

ほうけんあたいせんきん
宝剑值千金

こ か どれの ところ あ
胡笳いづれの処にか在る

て わ だつ あいおく
手を分かつとき脱して相贈る

はん や へんせい おこ
半夜 辺声を起す

へいぜい いっぺん ところ
平生一片の心

sòng dù shí sì zhī jiāng nán mèng hào rán
送 杜 十 四 之 江 南 孟 浩 然

zá shī wáng wéi
杂 诗 王 维

jīng wú xiāng jiē shuǐ wéi xiāng
荆 吴 相 接 水 为 乡

yǐ jiàn hán méi fā
已 见 寒 梅 发

jūn qù chūn jiāng zhèng miǎo máng
君 去 春 江 正 淼 茫

fù wén tí niǎo shēng
复 闻 啼 鸟 声

rì mù gū zhōu hé chù bó
日 暮 孤 舟 何 处 泊

xīn xīn shì chūn cǎo
心 心 视 春 草

tiān yá yí wàng duàn rén cháng
天 涯 一 望 断 人 肠

wèi xiàng yù jiē shēng
畏 向 玉 阶 生

けい ご あいせつ みず きょう な
荆吴相接して水を郷と為すも

すで かんばい ひら み
已に寒梅の発くを見

きみ き しゅんこうまさ びょうぼう
君去つて春江正に淼茫たり

また ていちょう こえ き
復た啼鳥の声を聞く

にち ぼ こしゅういず ところ やど
日暮孤舟何れの処にか泊る

しんしん しゅんそう み
心心に春草を視ては

てんが いちぼう ひと はらわた た
天涯一望 人の腸を断つ

ぎょうかい むか しょう おそ
玉階に向つて生ずるを畏る

yuán rì wáng ān shí
元 日 王 安 石

bào zhú shēng zhōng yí suì chú
爆 竹 声 中 一 岁 除

chūn fēng sòng nuǎn rù tú sū
春 风 送 暖 入 屠 苏

qiān mén wàn hù tóng tóng rì
千 门 万 户 瞳 瞳 日

zǒng bǎ xīn táo huàn jiù fú
总 把 新 桃 换 旧 符

ばくちく せいちゅういつさいつ
爆竹の 声 中 一 歳 除 け

しゅんぷうだん おく と そ い
春 風 暖 を 送 っ て 屠 蘇 に 入 る

せんもんばん こうとう ひ
千 門 万 戸 瞳 瞳 た る 日

すべてしんとう と きゅうふ か
総 て 新 桃 を 把 っ て 旧 符 に 換 う

shān xíng dù mù
山 行 杜 牧

yuǎn shàng hán shān shí jìng xiá
远 上 寒 山 石 径 斜

bái yún shēng chù yǒu rén jiā
白 云 生 处 有 人 家

tíng chē zuò ài fēng lín wǎn
停 车 坐 爱 枫 林 晚

shuāng yè hóng yú èr yuè huā
霜 叶 红 于 二 月 花

とお かんざん のぼ せつけいなな
遠 く 寒 山 に 上 れ ば 石 径 斜 め な り

はくうんしょう ところじん か あ
白 雲 生 ず る 処 人 家 有 り

くるま とど そぞろ あい ふうりん くれ
車 を 停 め て 坐 に 愛 す 楓 林 の 晚

そうよう に がつ はな くれなひ
霜 葉 は 二 月 の 花 よ り も 紅 な り

quàn jiǔ yú wǔ líng
劝 酒 于 武 陵

quàn jūn jīn qū zhī
劝 君 金 屈 卮

mǎn zhuó bù xū cí
满 酌 不 须 辞

huā fā duō fēng yǔ
花 发 多 风 雨

rén shēng zú bié lí
人 生 足 别 离

きみ すす きんくつ し
君 に 劝 む 金 屈 卮

まんしゃくじ もち
满 酌 辞 す る を 須 い ず

はなひら ふう う おお
花 発 い て 風 雨 多 し

じんせいべつり た
人 生 别 離 足 る

lù chái wáng wéi
鹿 柴 王 维

kōng shān bú jiàn rén
空 山 不 见 人

dàn wén rén yǔ xiǎng
但 闻 人 语 响

fǎn jǐng rù shēn lín
返 景 入 深 林

fù zhào qīng tái shàng
复 照 青 苔 上

くうざん ひと み
空 山 人 を 見 ず

た じん ご ひび き
但 だ 人 語 の 響 き を 聞 く

へんけいしんりん い
返 景 深 林 に 入 り

また せいたい うえ て
復 た 青 苔 の 上 を 照 ら す

shānzhōngyǔyōurénduìjiǔ lǐbái
山 中 与 幽 人 对 酒 李 白

liǎng rén duì jiǔ shān huā kāi
两 人 对 酒 山 花 开

yì bēi yì bēi yòu yì bēi
一 杯 一 杯 又 一 杯

wǒ zuì yù mián jūn qiě qù
我 醉 欲 眠 君 且 去

míng zhāo yǒu yì bào qín lái
明 朝 有 意 抱 琴 来

りょうじんたいしやく さん か ひら
両 人 对 酌 す れば 山 花 開 く

いっばい いっばい いっばい
一 杯 一 杯 又 一 杯

われ よ ねむ ほつ きみ しば さ
我 酔 う て 眠 ら ん と 欲 す 君 よ 且 ら く 去 れ

みょうちよう い あ こと だ き
明 朝 意 有 ら ば 琴 を 抱 い て 来 た れ

zhào jìng jiàn bái fà zhāng jiǔ líng
照 镜 见 白 发 张 九 龄

sù xī qīng yún zhì
宿 昔 青 云 志

cuō tuó bái fà nián
蹉 跎 白 发 年

shuí zhī míng jìng lǐ
谁 知 明 镜 里

xíng yǐng zì xiāng lián
形 影 自 相 怜

しゆくせきせいうん こころざし
宿 昔 青 雲 の 志

さ た はくはつ とし
蹉 跎 たり 白 髪 の 年

た れ し めいきよう うち
誰 か 知 ら ん 明 鏡 の 裏

けいせいおのずか あいあわ
形 影 自 ら 相 隣 れ ま ん と は

dōng lán lí huā sū dōng pō
东 栏 梨 花 苏 东 坡

lí huā dàn bái liǔ shēn qīng
梨 花 淡 白 柳 深 青

liǔ xù fēi shí huā mǎn chéng
柳 絮 飞 时 花 满 城

chóu chàng dōng lán yì zhū xuě
惆 怅 东 栏 一 株 雪

rén shēng kàn dé jǐ qīng míng
人 生 看 得 几 清 明

り か たんぱくやなぎ しんせい
梨 花 は 淡 白 柳 は 深 青

りゅうじょと はなしろ み つ
柳 絮 飛 ぶ と き 花 城 に 満 つ

ちゅうちよう とうらんいっしゅ ゆき
惆 怅 す 東 欄 一 株 の 雪

じんせい み う いくせいめい
人 生 看 得 る は 幾 清 明 ぞ

jīng shī dé jiā shū yuán kǎi
京 师 得 家 书 袁 凯

jiāng shuǐ sān qiān lǐ
江 水 三 千 里

jiā shū shí wǔ háng
家 书 十 五 行

háng háng wú bié yǔ
行 行 无 别 语

zhǐ dào zǎo guī xiāng
只 道 早 归 乡

こうすいさんぜんり
江 水 三 千 里

かしょじゅうごぎょう
家 書 十 五 行

ぎょうぎょうべつごな
行 行 别 语 无 く

ただい はや きょう かえ
只 道 う 早 く 郷 に 帰 れ と

nǐ sòng bié wáng yáo xiāng
拟送别王瑶湘

gū zhōu mù guī qù
孤舟暮归去

bié lù jiāng nán shù
别路江南树

yān wài yǒu zhōng shēng
烟外有钟声

gù rén zài hé chù
故人在何处

こしゅうく かえ さ
孤舟暮れに帰り去る
べつろ こうなん き
别路江南の樹
えんがいしょうせい あ
煙外鐘声有り
こじんいず こ あ
故人何処に在る

dù jiāng wén mò
渡江文墨

qīng shān rú gù rén
青山如故人

jiāng shuǐ sì měi jiǔ
江水似美酒

jīn rì chóng xiāng féng
今日重相逢

bǎ jiǔ duì liáng yǒu
把酒对良友

せいざん こじん ごと
青山故人の如く
こうすいびしゅ に
江水美酒に似たり
きょうかさ あいあ
今日重ねて相逢う
さけ と りょうゆう たい
酒を把って良友に対す

péi zú shū xíng bù shì láng yè jí zhōng shū jiǎ shè rén
陪族叔刑部侍郎晔及中书贾舍人
zhì yóu dòng tíng lǐ bái
至游洞庭李白

dòng tíng xī wàng chǔ jiāng fēn
洞庭西望楚江分

shuǐ jìn nán tiān bú jiàn yún
水尽南天不见云

rì luò cháng shā qiū sè yuǎn
日落长沙秋色远

bù zhī hé chù diào xiāng jūn
不知何处吊湘君

どうていにし のぞ そこうわ
洞庭西に望めば楚江分かる
みずつ なんてん くも み
水尽きて南天に雲を見ず
ひ お ちょう さしゅうしょくとお
日落ちて長沙秋色遠し
し いず ところ しょうくん とむろ
知らず何れの処にか湘君を吊う

qiū yuè chéng hào
秋月程颢

qīng xī liú guò bì shān tóu
清溪流过碧山头

kōng shuǐ chéng xiān yī sè qiū
空水澄鲜一色秋

gé duàn hóng chén sān shí lǐ
隔断红尘三十里

bái yún huáng yè gòng yōu yōu
白云黄叶共悠悠

せいけいなが す へきざん ほとり
清溪流れ過ぐ碧山の頭
くうすいちようせんいつしきあき
空水澄鮮一色秋なり
こうじん かくだん さんじゅうり
紅塵を隔断す三十里
はくうんこうよう ゆうゆう
白雲黄葉とともに悠々

qiūyè jì qū èrshí èryuán wài
秋夜寄邱二十二员外

wéi yìng wù
韦应物

yǒng shǐ
咏史

gāo shì
高适

huái jūn shǔ qiū yè
怀君属秋夜

shàng yǒu tí páo zèng
尚有缜袍赠

sàn bù yǒng liáng tiān
散步咏凉天

yīng lián fàn shū hán
应怜范叔寒

shān kōng sōng zǐ luò
山空松子落

bù zhī tiān xià shì
不知天下士

yōu rén yīng wèi mián
幽人应未眠

yóu zuò bù yī kàn
犹作布衣看

きみ おも う しゅう や ぞく
君を思うは秋夜に属し

なお ほ う ぞう あ
尚お てい袍の贈有り

さんぽ りょうてん せい
散歩して凉天に詠ず

まさ に はんしゆく かん あわ
まさに范叔の寒を憐れむなるべし

やまむな しゅう し お
山空しうして松子落つ

てんか し たる を し
天下の士たるを知らず

ゆうじんまさ いま ねむ
幽人応に未だ眠らざるべし

な ふ い かん
猶お布衣の看をなす

bān jié yú wáng wéi
班婕妤 王维

xún yǐn zhě bú yù jiǎ dǎo
寻隐者不遇 贾岛

guài lái zhuāng gé bì
怪来妆阁闭

sōng xià wèn tóng zǐ
松下问童子

cháo xià bù xiāng yíng
朝下不相迎

yán shī cǎi yào qù
言师采药去

zǒng xiàng chūn yuán lǐ
总向春园里

zhǐ zài cǐ shān zhōng
只在此山中

huā jiān xiào yǔ shēng
花间笑语声

yún shēn bù zhī chù
云深不知处

あや きた しゅうかく と
怪しみ来る 妆 閣閉じ

しょうかどうじ と
松下童子に問えば

ちょう くだ あいむか
朝より下るも相迎えざるを

い くすり と き
言う薬を採りに去ると

す しゅんえん うち むか
総べて春園の裏に向う

ただ こ さんちゅう
只此の山中にあらんも

か かんしょう ご こえ
花間笑语の声

くもふか ところ し
雲深くして処を知らず

shǔ dào hòu qī zhāng yuè
蜀道后期 张说

kè xīn zhēng rì yuè
客心 争日月

lái wǎng yù qī chéng
来往 预期程

qiū fēng bù xiāng dài
秋风 不相待

xiān zhì luò yáng chéng
先至 洛阳城

かくしん にちげつ
客心 日月と争い
らいおう あらかじ てい き
来往 預め 程を期す
しゅうふう あい ま
秋风 相 待たず
ま いた らくようじょう
先ず至る 洛陽城

nán lóu wàng lú zhuàn
南楼望 庐 僮

qù guó sān bā yuǎn
去国 三巴远

dēng lóu wàn lǐ chūn
登楼 万里春

shāng xīn jiāng shàng kè
伤心 江上客

bú shì gù xiāng rén
不是 故乡人

くに き てさん ぼとお
国を去って三巴遠く
ろう のぼ ぼんりはる
楼に登れば万里春なり
こころ いた こうじょう きゃく
心を傷ましむ江上の客
これ こきょう ひと
是れ故郷の人ならず

shào nián xíng cuī guó fǔ
少年行 崔国辅

yí què shān hú biān
遗却 珊瑚鞭

bái mǎ jiāo bù xíng
白马 骄不行

zhāng tái zhé yáng liǔ
章台 折杨柳

chūn rì lù páng qíng
春日 路旁情

い きやく さんご むち
遺却す珊瑚の鞭
はくばおご い
白马驕りて行かず
しょうだいやうりゅう お
章台楊柳を折る
しゅんじつろぼう じょう
春日路傍の情

bié dòng dà gāo shì
别董大 高适

shí lǐ huáng yún bái rì xūn
十里 黄云白日曛

běi fēng chuī yàn xuě fēn fēn
北风 吹雁雪纷纷

mò chóu qián lù wú zhī jǐ
莫愁 前路无知己

tiān xià shéi rén bù shí jūn
天下 谁人 不识君

じゅうり こううんはくじつくん
十里の黄雲白日曛じ
ほくふうかり ふ ゆきふんぶん
北風雁を吹いて雪紛々たり
うれう なか ぜんろち き なきを
愁うる莫れ 前路知己無きを
てんかだれひと きみ し
天下誰人か君を識らざらん

yèshàngshòuxiángchéngwéndí lìyì
夜上受降城闻笛 李益

huí lè fēng qián shā sì xuě
回乐峰前沙似雪

shòu xiáng chéng wài yuè rú shuāng
受降城外月如霜

bù zhī hé chù chuī lú guǎn
不知何处吹芦管

yí yè zhēng rén jìn wàng xiāng
一夜征人尽望乡

かいらくほうぜん すな ゆき に
回楽峰前 沙 雪に似たり

じゆこう じょうがい つき しも ごと
受降 城外 月 霜の如し

し いず ところ ろかん ふ
知らず何れの処か蘆管を吹く

いちや せいじんことごとくきょう のぞ
一夜 征人尽く郷を望む

sài shàng wén chuī dí gāo shì
塞上闻吹笛 高适

xuě jìng hú tiān mù mǎ huán
雪净胡天牧马还

yuè míng qiāng dí xū lóu jiān
月明羌笛戍楼间

jiè wèn méi huā hé chù luò
借问梅花何处落

fēng chuī yí yè mǎn guān shān
风吹一夜满关山

ゆききよ くてん うま ぼく かえ
雪净く 胡天 馬を牧して還れば

つき あき きょうてき じゅうろう かん
月は明らかに羌笛 戍楼の間

しゃもん ばいか さいか お
借問す 梅花いづくよりか落つる

かぜ ふ いちや かんざん み
風吹いて一夜関山に満つ

yè yǔ jì běi lǐ shāng yīn
夜雨寄北 李商隐

jūn wèn guī qī wèi yǒu qī
君问归期未有期

bā shān yè yǔ zhǎng qiū chí
巴山夜雨涨秋池

hé dāng gòng jiǎn xī chuāng zhú
何当共剪西窗烛

què huà bā shān yè yǔ shí
却话巴山夜雨时

きみ きき と いま きあ
君は帰期を問うも未だ期有らず

はざん やう しゅうち みなぎ
巴山の夜雨 秋池に漲る

いつか まさ とも せいそう しよく き
いつか当に共に西窓の燭を剪り

かえ はざん やう とき はな
却って巴山 夜雨の時を話すべき

hán shí hán hóng
寒食 韩翃

chūn chéng wú chù bù fēi huā
春城无处不飞花

hán shí dōng fēng yù liǔ xiá
寒食东风御柳斜

rì mù hàn gōng chuán là zhú
日暮汉宫传蜡烛

qīng yān sàn rù wǔ hóu jiā
轻烟散入五侯家

しゅんじょう ところ ひ か な
春城 処として飛花ならざるは無し

かんしょくとうふう ぎよりゆうなな
寒食東風 御柳斜めなり

ひく かんきゅう ろうそく つた
日暮れて漢宮より蠟燭を伝え

けいえんさん ごこう いえ い
軽烟散じて五侯の家に入る

漢詩かるた読み札原稿

参考資料

- 中国古典選 唐詩選 監修 吉川幸次郎
(朝日新聞社)
- 東洋文庫 蘅塘退士編/目加田誠 訳注
唐詩三百首(平凡社)
- 漢詩歳時記 渡部英喜著 (新潮選書)
- 新修 墨場必携 山本正一編 (法政大学出版局)